

## SR8000/MPP インタラクティブ環境の変更とデバッグ用ジョブクラスの新設について

システム運用係

SR8000/MPP のインタラクティブ環境（ホスト名：mpp-s.cc.u-tokyo.ac.jp, 以下 mpp-s）では、これまでテスト・デバッグ用に要素並列プログラム及び 2 ノードまでの並列プログラムの実行機能を提供していましたが、ノード資源の有効利用の観点から当機能は 9 月 5 日をもって廃止し、これに代わりデバッグ用ジョブクラスを 9 月 5 日より新設します。

### ◆廃止

mpp-s における要素並列ジョブ及び 2 ノードまでの並列ジョブの実行機能を廃止する。  
当機能の利用は 9 月 5 日（月）8:30 まで。

### ◇新設

デバッグ用ジョブクラスを下記のとおり新設する。  
9 月 5 日（月）9:30 より利用可能。

#### 【SR8000/MPP デバッグ用ジョブクラス制限値】

キュー名	制限時間 E-TIME	メモリー (MB)		ノード数
		仮想メモリー	区分 ES	
(mpp-debug) debug	10 分	13824 (13824)	—	2

注)・キュー名の mpp-debug はパイプキューの名称。

- ・CPU 時間 (C-TIME) は制限しない。
- ・メモリーの大きさは 1 ノード当たりの標準値 (括弧内は最大値)。

#### ※ジョブスクリプト記述例

```
#@$-q mpp-debug
```

```
#@$-N 2
```

```
:
```